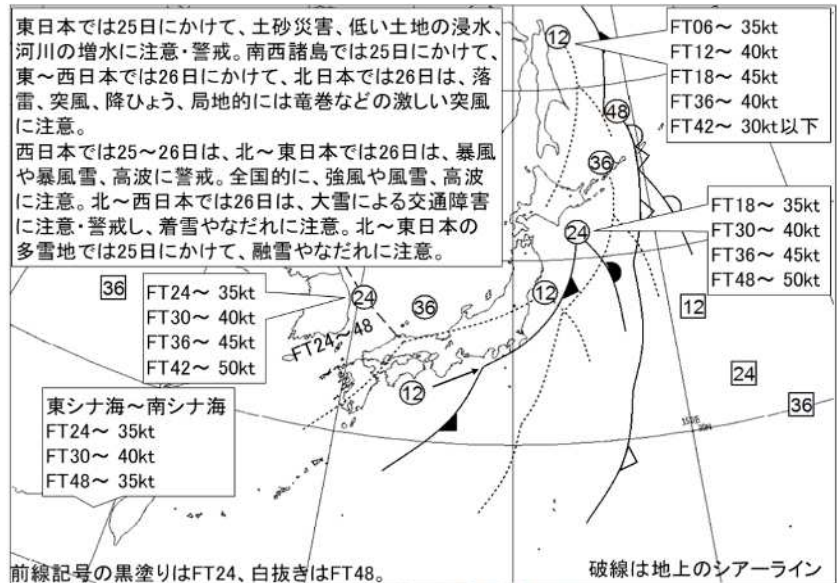


1. 実況上の着目点

- ① 前線が、サハリン付近の低気圧から日本海北部にのびている。北海道地方でやや強い風や強い風が吹いて、波が高い所がある。
- ② 前線を伴う低気圧が日本海中部を東北東進。種子島・屋久島付近と東海道沖にも低気圧があつて、共に東北東進。日本の東の高気圧後面の下層暖湿気が低気圧や前線に流れ込み、日本付近の広い範囲で雨。日本の南では激しい雨を解析し、活発に発雷。西・東日本太平洋側では、やや強い風や強い風が吹いて、波が高くしけの所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、24日は北海道地方を通過。北海道地方では24日は、強風や高波に注意。
- ② 1項②の日本海中部の低気圧は24日夜までに不明瞭となるが、東海道沖の低気圧が三陸沖の前線に進み、その後は発達しながら、25日は千島近海に、26日はオホーツク海に進む。種子島・屋久島付近の低気圧は、24日夜までに前線に取り込まれて不明瞭となる。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨が降って大雨となる所がある。東日本では25日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。東～西日本と南西諸島では25日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、北～東日本の多雪地では、融雪やなだれに注意。低気圧や前線の影響で、強い風が吹いて波が高くなりしける所がある。北～西日本では25日にかけて、強風や高波に注意。
- ③ 2項②の低気圧や前線の通過後は26日にかけて、西高東低の冬型の気圧配置が強まる。また、25日朝までにアムール川中流域の寒冷渦の周りを回る500hPa 5280m付近で-36℃以下の寒気を伴うトラフに対応して、日本海西部に日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）と低気圧が発生。低気圧は発達しながら日本海を東進して能登半島付近に進むが、26日朝までに不明瞭化。JPCZは、26日にかけてほとんど停滞。低気圧やJPCZの近傍では、雪を伴って非常に強い風が吹き、波が高くなり大しけとなる所がある。また、下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い降雪の強まる所がある。西日本では25～26日は、北～東日本では26日は、暴風や暴風雪、高波に警戒し、全国的に強風や風雪、高波に注意。北日本と東～西日本では26日は、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれ、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ## 4. 防災関連事項【量的予報等】
- ① 雨量(18時から24時間)：伊豆諸島100mm。
 - ② 降雪量(18時から24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
 - ③ 波浪(明日まで)：中国・九州南部・沖縄5、その他広い範囲で3～4m。
 - ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「暴風雪と高波及び大雪に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。